[成果情報名]フラワーアレンジメントなど幅広い用途に適する秋スプレーギク新品種「シュリカナサ」の特性

[要約]秋スプレーギクの新品種「シュリカナサ」の花形は、デコラ咲きの大輪で、フラワーアレンジメントなど仏事以外の用途に適する。沖縄の栽培環境に適応し、安定した切り花および穂木生産ができる。

[キーワード]秋スプレーギク、マム、デコラ咲き、大輪

[担当]沖縄県農業研究センター・野菜花き班
[代表連絡先]098-840-8506

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

近年、仏花のイメージを感じさせない、マムと呼ばれる新しいタイプのスプレーギク品種が増えている。マムは、フラワーアレンジメントなど幅広い用途に利用できることから需要が増加しており、沖縄県でも生産が望まれている。しかしながら、これまで導入された国外や県外で育成された品種は、沖縄県の栽培環境に適さないことが多いことから、本研究では、幅広い用途に利用できるマムの花形を有し、本県で安定して切り花生産および増殖できる品種を育成した。本成果ではその特性を報告する。

[成果の内容・特徴]

１．「シュリカナサ」は、デコラ咲き（ダリアの花形に似た八重咲）の大輪系スプレーギクである。花色は淡紫ピンクで、花弁色は展開するにつれて淡くなり、中心が濃く、外側に向かってグラデーションがかかる。花弁は長く柔らかく、ゆるい捻れをもつ（図１ａ）。

２．夏期の親株栽培では、比較品種と比べて立枯れが少ないため、安定した穂木生産量が見込める。（表１）。

３．11～２月出荷作型における秀品率は 57～81%、到花日数は 50～52 日で比較品種と比べて伸張性が優れた。３～４月出荷作型では秀品率 64～69%、到花日数は 49～50 日で切り花品質は 11～２月出荷と同等であった。いずれの時期も秀品率は 50%以上の高い値を示し、到花日数は 49～52 日と安定しており、定植後３～3.5 ヶ月で切花長１ｍを確保できる（表２）。

４．12 月に収穫した後に電照を再開し、株出し栽培（２度切り栽培）することにより、３月に収穫が可能である（データ省略）。

５．県内出荷団体による 2019 年から 2022 年の４年間にわたる試作において聞き取り調査を行った結果、栽培担当者から「「シュリカナサ」はダリアのような花形で花色が良い。花揃いも良く、草丈伸張性も優れる」と高評価を得ている（データ省略）。

６．輸送後の花弁傷みや花持ちから切り前（収穫時期）は５分咲き（図１ｂ）が適し、航空輸送した場合の切り花観賞期間は、14 日以上である（表３）。

[成果の活用面・留意点]

１．沖縄県のキク生産において、11～４月出荷作型で活用が見込める。

２．降雨による切り花品質の低下を避けるため、栽培には、開花期に雨よけが必要である。

３．本品種は花が大きいため仕立てはディスバッド（一輪仕立て）が適する。

４．収穫は、５分咲き（図１ｂ）を過ぎると、花弁が開きすぎてまとめにくくなりフラワーキャップを被せるのが難しくなるので注意が必要である。

５．電照に鋭敏に反応するので、消灯後は隣接する圃場の電照漏れに、特に注意が必要である。

６．本品種は、イノチオ精興園株式会社との共同研究で育成された。栽培を希望する生産者は、イノチオ精興園と栽培許諾契約を締結する必要がある。なお、栽培は沖縄県内に限定される。

[具体的データ]

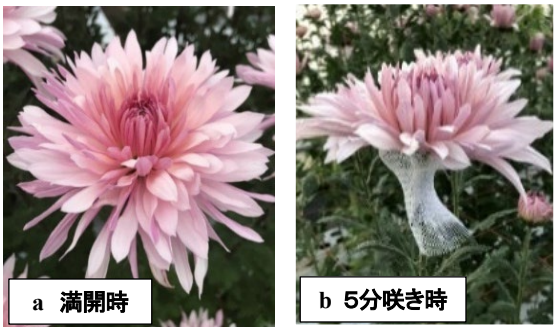

図1 「シュリカナサ」の花
5分咲きは最も外側の花弁が水平になった頃
（撮影：2020 年 12 月農業研究センター）

表1 親株栽培における立枯れ率及び穂木生産量

年	品種名	立枯れ率（%）	採穂数（本/株）	穂木生産量（千本/a）
2020	シュリカナサ	0.0	6.0	12.0
	セイオペラピンク（比較）	83.3	4.2	1.4
	セイヨーク（比較）	53.3	4.7	4.4
2021	シュリカナサ	0.0	3.9	7.8
	セイオペラピンク（比較）	16.7	5.8	9.7
	セイヨーク（比較）	0.0	4.4	8.8

比較品種は県内で栽培されている品種である。
2020 年度：定植 6 月 25 日、採穂日 8 月 13 日、定植株数：5～6株/区、2反復
2021 年度：定植：5 月 18 日、採穂日 7 月 2 日、定植株数：3～4株/区、2反復
栽培：平張施設・天井遮光（遮光率 51%；黒 2mm ネット使用）、
　　採穂は摘心し2回ピンチ後から開始した。
立枯れ率：採穂日の時点で枯死した株数/定植株数
採穂数：採穂日に収穫した穂数/採穂した株数
穂木生産量：2,000 株/a 定植で換算、2,000 ×（1－立枯れ率）×採穂数

表2 作型別の切り花特性及び収量性

作型（年度）	試験場所	土壌型	定植月日	摘心月日	消灯月日	品種名	消灯時茎長(cm)	収穫月日	到花日数	切花長(cm)	調整重量(g)	花径(cm)	収穫本数(/10a)	秀品率(%)
11月（2021）	農研(糸満市)	ｼﾞｬｰｶﾞﾙ	8/6	8/13	9/30	**シュリカナサ**	**63**	**11/20**	**50**	**103**	**54**	**13.9**	**47,222**	**81**
						ｾｲﾒﾛﾃﾞｨﾋﾟﾝｸ(比)	44	11/19	49	99	48	8.4	45,635	59
12月（2020）	農研(糸満市)	ｼﾞｬｰｶﾞﾙ	9/23	9/30	11/9	**シュリカナサ**	**44**	**12/31**	**52**	**104**	**42**	**12.9**	**55,504**	**57**
						ｾｲﾒﾛﾃﾞｨﾋﾟﾝｸ(比)	42	12/28	50	95	41	8.1	65,922	37
2月（2021）	農研(糸満市)	ｼﾞｬｰｶﾞﾙ	10/25	11/5	12/15	**シュリカナサ**	**36**	**2/3**	**50**	**100**	**49**	**14.2**	**44,345**	**68**
						ｾｲﾒﾛﾃﾞｨﾋﾟﾝｸ(比)	28	1/31	46	90	46	8.5	53,571	37
3月（2019）	JA実験農場（八重瀬町）	島尻ﾏｰｼﾞ	11/22	12/2	1/17	**シュリカナサ**	**－**	**3/8**	**50**	**98**	**53**	**12.8**	**50,600**	**64**
4月（2020）	花卉農協農場（名護市）	国頭ﾏｰｼﾞ	1/12	1/26	3/1	**シュリカナサ**	**－**	**4/19**	**49**	**124**	**63**	**13.6**	**55,000**	**69**

各試験は開花時にビニル被覆できる平張施設及びネットハウスで実施した。整枝本数は 2～3 本/株である。1 月出荷作型は未実施である。
到花日数：消灯から収穫までの日数（再電照なし）、調整重量：切花を長さ 80cm にカットし下葉を 25cm 除去した時の重量
秀品率：切花長 80cm 以上で調整重量 40g 以上の切花の割合

表3 切り前（収穫時期）の違いと輸送後の切り花の状態と花持ち日数

切り前	輸送後の切り花の状態	花持ち調査		
		花持ち日数		評価
5分咲	花弁傷みなし	16.8	＊	○
7分咲	一部の花弁に傷みあり	10.0		△

輸送時期：2021 年 1 月 4, 23 日、輸送方法：フラワーキャップを装着し、航空便（那覇－広島）、調査実施場所：イノチオ精興園花持ち試験室、調査方法：輸送後水切りし 60cm にカットして開始。調査は日本花普及センター切り花評価リファレンステストマニュアルに準じた。評価：○;花持ち日数 14 日以上、△;7 日以上　＊は5%水準で有意差あり（分散分析、n=5）

（沖縄県農業研究センター）

[その他]

予算区分：県単（沖縄農業を先導する育種基盤技術開発事業）、沖縄振興特別推進交付金事業（先端技術を集結した園芸品目競争力強化事業、労働力不足と環境負荷軽減に対応する沖縄型園芸農業技術開発事業）

研究期間：2016～2023 年度

研究担当者：田場奏美、関塚史朗、守屋伸生、赤嶺聖良、渡邊武志、玉城盛俊（沖縄県農研セ）、儀間直哉（沖縄県農大）、亀山健太（沖縄県営農支援課）、宮城悦子（沖縄県病虫防セ）、座喜味利将（沖縄県北農振興セ）

発表論文等：　1）田場奏美ら品種登録出願：2024 年 2 月 13 日公表（第 37113 号）